



## 科学部の生徒が干潟に住む生物の調査を行いました

本校科学部の生徒が5月30日(日)に、佐賀市東与賀町の東与賀干潟で生態系の調査を行いました。干潟の泥の中からカニやゴカイを見つけて生息状況を確認しながら、有明海湾奥部に住む生物の多様性を体感しました。

最高気温が30度を越える中、佐賀自然史研究会の会長や佐賀大学農学部先生の指導の下、科学部の部員達は潟スキーを使って干潟に入り、岸から50m、100m、200mの各地点の泥を調査し、生物の種類や個体数の記録を行いました。普段実験室で行う実験とは異なり、フィールドワークを通して今後の新しい研究テーマにつながることを期待されます。



## 第1回リサーチセミナーを開催しました。

6月5日(土)に、理数科1年生を対象に、第1回「リサーチセミナー」を実施しました。佐賀大学教育学部附属教育実践総合センター

・佐賀大学大学院 理工学研究科 准教授 和久屋寛先生に「人工知能を取り巻く過去・現在・未来について ~2021年夏に考える~」と題して、人工知能やAIの研究開発状況と将来の可能性や事例を紹介していただきました。現在、研究室で取り組んでいる「ミニ四駆」をAIで制御する研究など、生徒が身近に感じる内容を中心に話をされ、生徒たちは先生の話に引き込まれ、真剣に聴いていました(右上写真)。



セミナーの中では、和久屋先生の研究室に在籍する大学院生の方も、学部生時代に取り組んだ活動や現在取り組んでいる研究について話をされました。学部生時代に取り組んだ災害救助ロボット開発の裏話や、熟して柔らかいトマトの収穫をAIで制御してロボットに行わせる研究など、生徒たちが来年度行う課題研究に対する関心を高める内容でした。

セミナー終了後には、生徒たちが和久屋先生の控え室を訪れ、ミニ四駆を制御する仕組みや工夫した点などを質問していました。和久屋先生や大学院生の方も自分たちの経験だけでなく専門的な原理の説明を交えて、熱心に話をしてくださいました(右写真)。



### <聴講した生徒の感想>

- AIの「学習」と人間の「研究」の関係が今後の課題であることが分かった。私たちは学習することが終わりではなく、まだ知られていないことを見つけて解決すること(=研究)が目標であり、AIが苦手な部分を伸ばしていくことが大切だと感じた。